

Q & A 集

Q1. 学認に参加にあたって学内への説明のために、参考となる資料はありますか？

A1. 学認公式 Web サイトに「学認参加のための学内説明用資料雛形(令和 6 年度版)」という資料を用意しております。こちらをご参考にしていただけますようお願いいたします。

<https://www.gakunin.jp/document/730>

Q2. 実証実験終了後に継続して学認対応 IDaaS を利用する際の参考費用を知ることができますか？

A2. 実証実験終了後の費用につきましては、「学認参加のための学内説明用資料雛形」に「IdP構築及び保守にかかる費用」として参考情報を記載しておりますので、ご確認頂きますようお願いいたします。ただし、本実証実験終了後は初期構築は完了している想定ですので、機能追加や設定追加などを使用しない限り、【次年度以降】として記載の利用料の部分を確認下さい。

Q3. IdP を本学で導入、構築する際に、参考となる資料はありますか？

A3. 学認公式 Web サイトに「学認対応 IdP サービス調達仕様案」という資料を用意しております。こちらをご参考にしていただけますようお願いいたします。

<https://www.gakunin.jp/document/731>

Q4. 現在、学認に参加している機関でも実証実験に参加できますか？

A4. 本実証実験は、学認への未参加機関だけではなく、参加済機関も対象としております。ただし、学認参加済の場合は、学認対応 IDaaS (ID as a Service) への移行を検討しているなど、条件があります。

「学認対応 IdP ホスティングサービス実証実験 2024 参加機関募集のご案内」の「3.実証実験の実施要領及び説明会の開催」> 「●実施要領」> 「対象機関」に当てはまっているかご確認の上、ご参加くださいますようお願いいたします。

<https://www.gakunin.jp/node/742>

なお、提供機関選定においては、学認未参加機関を優先させていただく場合があります。予めご了承くださいませようお願いいたします。

Q5. 本学は、ユーザ数が1万以上になりますが、実証実験に参加することはできますでしょうか？

A5. 本実証実験では、総ユーザ数が決まっておりますため、ヒアリングにて状況をお聞かせいただきつつ、登録可能なユーザ数を決定させていただきます。ただし、他参加機関のユーザ数との兼ね合いもありますので、教職員のみや学生のみなど利用ユーザを限定させていただく場合がございますこと、ご了承くださいませようお願いいたします。

Q6. 今後、オープンアクセスを担当する図書館職員などが JAIRO Cloud の利用の際に学認への参加が必要になるのでしょうか？

A6. 現在の JAIRO Cloud におきましては、GakuNin RDM と JAIRO Cloud の連携におきまして学認の利用を想定して開発が進められております。詳細につきましては、以下のサイトに「(図書館職員向け) 即時 OA (オープンアクセス) を支える認証について」として、必要事項をまとめております。こちらをご参考にしていただけますようお願いいたします。

(図書館職員向け) 即時 OA (オープンアクセス) を支える認証について:

<https://www.gakunin.jp/fed/732>

Q7. 学認の参加を大学(研究所)でなく、法人(機構)で申請できますか？

A7. 申請可能です。実績としても、法人(機構)として参加いただいている機関が複数ございます。ただし、利用予定のSPによりますが、法人(機構)内での契約情報どおりに権限の振り分けができるかなどの問題がございますので、IdPの構築の形態や、SPとの接続については実証実験中に検討を行うこととなります。

Q8. オンプレミス (Shibboleth など) と学認対応 IDaaS を学認 IdP として2つ利用することは可能ですか？

A8. 学認に参加頂く IdP につきましては、原則的には1機関に1つとなります。ただし、オンプレミスから学認対応 IDaaSに移行する場合などを想定しておりますが、経過措置として一時的に2つの IdPを並行稼働することは問題ありません。

Q9. SAML 署名証明書は UPKI 以外でも利用可能ですか？

A9. 基本的には自己証明書を含めたサーバー証明書は利用可能です。ただし、すべての証明書を検証してはおりませんので、動作の確約はできません。複数の機関で問題なく動作しているためUPKIのサーバー証明書を推奨しています。

Q10. 現状の Shibboleth からの移行は可能ですか？

A10. eduPersonTargetedID (以降 ePTID) の観点での回答にはなりますが、移行の可否は以下の通りです。

- ・ 移行可能：ePTID が ComputedID である
- ・ 移行不可能：ePTID が StoredID である

Q11. 実証実験の参加申請はどのような手続きですか？

A11. 参加については以下の申請が必要です。

- ・ 実証実験の参加申請：ID管理や認証基盤を利用する部局等の長に相当する者から NII に申請

参考：<https://www.gakunin.jp/node/754>

- ・ 学認の参加申請：機関の長（学長や法人理事長）から NII に申請

参考：<https://www.gakunin.jp/document/74>

- ・ 学認対応 IDaaS の利用申請：担当者から学認対応 IDaaS ベンダーに申請

その他、学認参加後に利用するSPによっては、SP個別に利用申請が必要となる場合がございます。

Q12. 学認対応 IDaaS のサポート（問合せ先など）についてはどうなっていますか？

A12. 問い合わせ受付用のメールアドレスを用意しておりまして、一般的なサービスサポートを受けることができます。

Q13. SAML 署名証明書以外に費用が掛かりそうなものはありますか？

A13. 本実証実験では、学認対応 IDaaS 本体及びそのサポートを提供するものとなります。それ以外の連携システムがある場合は、当該システム操作を参加機関側（の別途契約中のベンダー作業も含む）で行って頂く必要がございます。

例) 移行元となる Shibboleth の操作

例) 移行元となる ID管理システム、ActiveDirectory、人事システムなどの操作

また、学認参加後に利用するSPによっては、個別にサービス利用料金が発生する場合がございます。

Q14. 学認対応 IDaaS の継続利用は可能ですか？

A14. 実証実験終了後の学認対応 IDaaS の継続利用につきましては、学認対応 IDaaS ベンダーと直接ご相談頂きますようお願いいたします。

費用につきましては、「学認参加のための学内説明用資料雛形」に「IdP構築及び保守にかかる費用」として参考情報を記載しておりますので、ご確認頂きますようお願いいたします。

ただし、本実証実験終了後は初期構築は完了している想定ですので、機能追加や設定追加などを使用しない限り、【次年度以降】として記載の利用料の部分を確認下さい。

Q15. ユーザー会の参加について現地参加となりますか？

A15. ハイブリッド開催を予定していますので、遠方の方、来訪が難しい場合はリモートでご参加頂けます。

Q16. 学認対応 IDaaS で学認以外の認証や ID 管理を実現したいのですが可能でしょうか？

A16. IDaaS 自体には、学認以外の認証や ID 管理の機能がありますが、本実証実験での提供範囲は学認の認証機能のみとなっています。

既存のLDAPとの連携や外部システムへのID連携など、外部連携は今回の仕様に含まれておりませんので、応相談になります。

Q17. 年度末に一時的に ID 数を超過してしまうことが想定されるのですがどうすればよいでしょうか？

A17. 一時的な超過については、対応が可能です。詳細は参加後にご確認ください。